

平成28年度第3回教育自立圏検討会議 会議録【概要版】

日 時：平成28年10月17日（月）午後2時30分～午後4時30分

場 所：中央公民館岩木館2階 大ホール

出席者：裾野中学校：教頭 三上俊英、教諭 木村収、教諭 村上弘恭

東目屋中学校：校長 佐藤浩一、教務主任 高橋憲司

第三中学校：教頭 石田盛彦

大成小学校：校長 佐藤昭、教頭 成田満、教務主任 猪股健

石川中学校：校長 松山正男

弘前地区小学校長会 会長 齋藤治

理事兼学校教育推進監 櫛引健

学務健康課：課長 後藤千登世、主査 藤田貴子

学校指導課：課長 奈良岡 淳、課長補佐 木村憲夫、指導主事 葛原秀人、指導主事 三ツ橋一弘

学校づくり推進課：課長 宇庭芳宏、課長補佐 早坂謙丞、主幹兼係長 種市穂、主査 千葉大慎

アドバイザー：青森中央学院大学 教授 高橋興

裾野小学校：校長 小山内剛、教頭 相澤純子、教務主任 三上卓伸

東目屋小学校：校長 玉田嘉昭、教務主任 田中剛

文京小学校：校長 工藤信敬、教頭 山口祝一、教務主任 竹浪立也

第三大成小学校：校長 高橋真弓、教務主任 沖島貴久

石川小学校：校長 内田貴士、教務主任 地主司

教育政策課：課長 鳴海誠

生涯学習課：総括主幹兼係長 村上光義

○報告

調査研究の進捗状況について（各中学校区からの報告）

- ・裾野中学校区
- ・東目屋中学校区
- ・第三中学校区
- ・石川中学校区

アドバイザーコメント

- ・弘前として新しい取組みを始めたばかりであるので、急がず地道に取り組んでほしい。
- ・目指す子ども像とともに「目指す教師像」も議論して、小中一貫に取り組んでほしい。
- ・弘前もいずれ小規模校が増えるが、人材を小・中で有効に活用する視点で、乗り入れ授業の実践を積み重ねていってほしい。

○議事

(1) 学校運営連絡協議会の運営について

No.	質問や意見の要点	回答内容等
1	校長は基本方針を作成し、協議会の承認を得るとしているが、承認が得られない場合はどうなるのか。	(アドバイザーより) 従来は文科省のQ&Aなどで「意見を尊重し、必ず承認を得られるようにしなければならない」としていたが、最近の解説では、「承認が得られない場合は、最終的に校長の案で実施する」としている。指定校の調査で承認されなかった事例は聞いたことがない。
2	委員の人数について、11名になりそうであるが、10名前後という訳にはならないか。教職員は報酬が支払われないので、10名分を予算化しているのであれば、11名選定しても問題ないと思う。	前回の検討会議において、10名以内という叩き台が承認され、今回規則案を作った。調査研究期間の中で10名だと少ないという声が出てくれば検討する必要があると考えている。
3	学校運営協議会の謝金はどのように考えているのか。	現在検討中ではあるが、学校評議員からの移行を考えているので、現在の評議員報酬をベースに年間での報酬を検討している。
4	会議の公開について、学校運営協議会を開く時に、地域住民に周知するという意味で捉えて良いか。傍聴は地域住民を想定しているのか。	学校運営協議会の性質からして対象は地域住民を想定している。学校だより等で学校運営協議会の開催日程等を掲載することによって、地域住民が会議日程を把握し傍聴に来ることは考えられる。
5	住民参画の促進について書かれているが、具体的にどのようなことが考えられるか。会議を中心に考えているのか。役割分担した具体的な動ける組織づくりまでここに入ってくるのか。	現在検討している(仮称)地域学校協働システムの部分になる。まだ具体的な形は決まっていないが、学校運営協議会の中で、地域コーディネーターや学校支援の組織も話し合っていたと考えている。

アドバイザーコメント

- ・「会議の公開」と「住民参画の促進」はリンクするものである。
- ・学校運営協議会の委員が各部会のリーダー的役割を担っている京都方式を参考に弘前も検討してほしい。
- ・地域住民が様々な形で学校運営に参画することが学校運営協議会を置く狙いである。
- ・CSと(仮称)地域学校協働システムは地域と共に推進すべきであり、小中一貫教育も地域住民の協力なしに成果を上げることはできない。

(2) 来年度の調査研究について

※質問や意見等特になし

アドバイザーより【全体を通しての感想】

- ・CSと小中一貫教育に各調査研究校で前向きに取り組んでいることを実感した。
- ・CSと小中一貫教育を同時に取り組むことは相乗効果があり、成果が出ることに期待を膨らませている。
- ・CSを導入したからといって、すぐに成果が出る訳ではない。視察先に行ってもそのあたりを確認しながら頑張してほしい。

○事務連絡

- (1) ホームページの開設について
- (2) チャレンジ社(まんじ)について
- (3) 教育フェスティバルについて